

平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」（御浜町）の概要

7月24日（火）に御浜町で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。
当日は、三重南紀温州部会の皆さん7名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 1ターンで御浜町にやってきた方で帰っていった人が一人もいない。外から就農した人を受け入れる環境がある。
- 自分一人が良ければいいのではなく、知っていることは皆に伝えるなど、皆で産地を盛り上げていこうという意識がある。
- 南紀みかんは、三重ブランドとして認定されているが、知事に命名いただいた「みえの一番星」のダンボール箱には、三重ブランドと記載できない。名古屋などの市場で三重ブランドなんだと自信を持ってPRしていくために協力して欲しい。
- 就業者の高齢化が進んでおり、あと3年から5年後には深刻化するので、担い手対策が必要である。
- 他の地域から御浜町で農業をやりたいと相談にみえる方が何回もこちらに相談に来ないといけないのは、負担になるので改善して欲しい。
- 出身の奈良では御浜のみかんを知らなかった。県内でも御浜のみかんのPRを行っ

ていきたい。また、小学校の給食などで御浜のみかんを出すなど地産地消の取組を展開して欲しい。

- 獣害が多く、柵の現物支給も考えて欲しい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 実際の商取引の場で三重ブランドと表示されなければ意味がない。融通が利くようスピード感をもって対応したい。
- 担い手対策は特効薬がない。若い人達に来てもらうため、平成 24 年度の新規事業として就農サポーター制度で若いリーダーが農業を教えるなど始める際のハードルを下げる展開をしている。現場の状況を聞きながら検討を進めていきたい。
- 本気で就農相談に来ている方に何回も何回も来ていただくなど負担をかけていることは、行政職員の対応の問題なので直ぐに改善しないといけない。
- 三重県では、第 3 日曜日を「地物一番の日」とし、前日の土曜日にショッピングセンターで私も PR を行っている。また、毎月第 3 木曜日を「地物給食一番の日」として地域の食材を使った給食の提供について協力いただける学校に呼びかけている。しかし、学校で食材の調達など全部を行うのは難しいので、職員がコーディネートして食材の提供が出来るようにしていきたい。
- 給食は分かりやすいのでこの取組を進めていきたい。職員が一生懸命頑張ればお金はかからないので「地物給食一番の日」で地元のものが給食で提供できるようにしていきたい。
- 三重県では、今年度から獣害対策課という組織を置き、対策を行っているが、なかなか特攻薬がない。生育環境の復活再生、また、どう捕獲していくか、また捕獲した獣肉の利用について事業を実施している。



多くの方が会場にお越しいただきました。なお、会場にお越しの方から御浜町のみかんが美味しいので、1 ターンで御浜町に就農したとの発言もありました。

